

多文化こども
エンパワメント
事業

若者支援事業 (つづき)

日本語指導

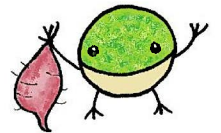
日本語
2016年度を振り返って

2016年度から、外国にルーツをもつ若者のための「日本語サポート」も実施しました。定時制や夜間中学校に通う15歳以上の若者を対象に、日常生活に必要な日本語について、若者の興味関心に応じたテーマを試行錯誤しながら、日本語学習をおこないました。

日本語 2017年度に向けて

日本語のサポートを必要とする若者は潜在的にたくさんいると感じています。今後ますます、地域の学校や団体と連携していきたいと思います。

スタッフより



写真上) 若者研修で関東東海地方へ。川崎市のふれあい館前。
写真下) スタッフ、コーディネーターでゆっくりとした雰囲気でも振り返りをした。

多文化こども
エンパワメント
事業

多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクト (てーげー・コミュニケーションズ)

外国にルーツを持つ若者や子どもたちがつながる場づくりや、メディアをつかった社会発信、さまざまな人達との対話をしています。(「てーげー」とは沖縄のうちなーぐちで「適当」の意)

てーげーコミュニケーションズ
2016年度を振り返って

「てーげーコミュニケーションズ」でDVD 2作品(『ぼくと沖縄とみんな』、子ども事業のダンス発表会記録映像『魅惑のエンターテインメント・ショー』)を完成させることができました。

現在頒布や上映をおこない、観た方からの反響もいただいています。また協議離婚問題を扱った『リコン・アラート』のネット動画の編集にも取り組みました。

写真左上) 「ぼくと沖縄とみんな」絶賛発売中です!
写真左下) 子ども事業(ダンス)発表会の記録DVD
写真下) リコン・アラート(協議離婚問題研究会)の動画編集(11言語)を行いました。

2017年度に
向けて

今年度は多作の年にすることができましたが、今後どのような活動をしていくかが課題となります。表現活動に気軽に取り組める場をつくれればと考えています。



ボランティアより



多文化こども
エンパワメント
事業

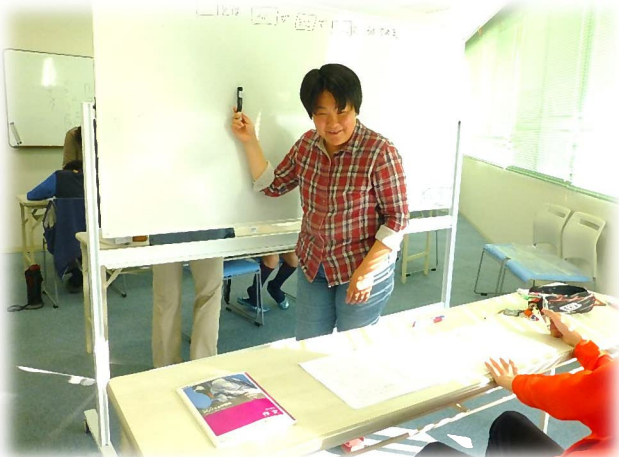
とよなかこどもにほんご教室

日本語学習が必要な子どものための日本語教室（月曜日・木曜日 15:00～18:00、土曜日 14:30～17:30）
（豊中市教育委員会委託事業、日本語指導者グループ「とよなかJSL」、とよなか国際交流協会が協働で実施）

とよなかJSLより

2016年度を振り返って

ここにプロでは、日本に来て小中学校に通っている外国にルーツを持つ子どもたちに“ガチ”で日本語を教えています。低学年の子は日本で友だちが出来て仲良く学校生活が送れるように、時には楽しく、時には厳しく指導しています。今年は受験生3人、全員高校へ進学しました。ただ話せばいいのではなく、日本で進路を切り開いていける力をつけてもらうのが私たちの願いです。



先生が優しく、時には厳しく教えてくれます



学校の勉強で使われる日本語を集中して学習します。

2017年度に向けて

一人でも多くの子どもが学校生活に入っていけるよう、送り出したいと思っています。それから、私たちのメソッドをテキストとしてまとめていきます。

学校とつなが
ってつくる豊か
な未来事業

小学校外国語体験活動事業

豊中市のすべての小学校の3年生～6年生のクラスに、地域に暮らす外国人ボランティアを派遣して、ルーツのある国の文化や言葉を紹介します。豊中市教育委員会の委託事業。



写真上) ボランティアは子どもたちと出会えるのを楽しみにしています！

写真右) 日本と違う習慣や文化に子どもたちも興味津々！

コーディネーター
より

2016年度を振り返って

外国語体験活動では 2016 年度も豊中市内の全小学校に地域に住む外国人サポーター57人に全 1270 回の授業を行っていただきました。外国語体験活動では活動名通り外国語を学ぶことはもちろん、サポーターの出身国の文化や遊びなどを紹介し、子どもたちに知ってもらうこと、出会う事を大切にしています。2016年度に子どもたちが授業を通して出会った国は22か国にのぼります。また授業に行ってもらったサポーターの皆さんにも、小学校を通じて地域とつながってもらった事で、楽しい時間を過ごせ自信がもてるようになったという言葉がいただいています。

2017年度に向けて

2017年度は学校からの希望や、どんな授業にしたいかという声を聞きながら、この活動で大切にしている事、子どもたちとサポーターとが出会い言語と文化、そして人がつながる事でお互いが元気になれるように進めていきたいです。

多文化こども
エンバウメント
事業

子ども学習広場「学楽多（がらくた）」

豊中市くらし支援課の委託事業として、市内2か所で子どもの学習サポートを行っています。
@「しょうないガダバ」は毎週火曜日 17:00~19:00、@とよなか国際交流センターは毎週金曜日 17:00~19:00。

2016年度を振り返って

今年度より、豊中市くらし支援課の委託事業「生活困窮世帯の子どもの学習支援事業」として、子ども学習広場『学楽多（がらくた）』を開始しました。センターと庄内の2か所で、学校の宿題と復習を中心に、実験や工作や調理実習のような体験学習とゲーム活動を通して、多様な学びと子ども同士の出会いを楽しんだりすることができた。2か所で年間80回開催し、延べ183人が参加した。クリスマス会や多文化フェスティバル参加なども大きな力となりました。



調理実習は子どもたちにとって最高に楽しい時間です。

指導者と向かい合っ、集中して勉強する子どもたち



しょうないガダバで行われた「クリスマスパーティー」は大盛り上がり！

2017年度に向けて

来年度は、センター内の子ども事業や日本語交流活動への広報を充実させ、教育委員会や公民館や地域の子ども支援団体等との連携し、学楽多の活性化を図ります。また、ボランティアの募集と研修を兼ねた養成講座と他団体への視察を行います。

学校とつなが
ってつくる豊か
な未来事業

国際教育

多文化フェスティバル、帰国・渡日児童生徒学校生活サポート事業での「多言語による進路相談会」など、学校や教育委員会との連携により、外国にルーツを持つ子どもたちをサポートしています。

2016年度を振り返って

「国際教育推進協議会」と協会の共催の「2016多文化フェスティバル」は、センターで活動している各子ども事業が様々な出店を出し、多くの参加者が多様な文化を楽しむことができました。豊能ブロック協議会の構成団体として、帰国渡日児童生徒のための「多言語進路ガイダンス」を開催しました。外国にルーツのある児童生徒の進路保障を具体的に支援するいい機会となりました。その他、「ルーツ教員研究会」と「南北コリアと日本のともだち展」に関わりました。



写真上)「多言語進路ガイダンス」で、外国人生徒の高校入試について説明がされています。
写真下) ルーツ教員研究会と障害教員研究会の共同研究会で情報共有している。

2017年度に向けて

2017年度も、「多文化フェスティバル」と「多言語進路ガイダンス」がより効果的でたくさん子どもたちが集まり、更に充実した居場所と進路の保障につながるように検討していきます。

おとな
サポート
事業

多言語相談サービス事業

外国人市民が地域で安心して生活できるよう、必要な情報の提供と相談サービス（電話、面接）を多言語で行う。相談体制：金曜日 11 時～16 時 / 日本語、英語、フィリピン語、タイ語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、ネパール語

2016 年度相談実績について

2016 年度の相談件数は 1,146 件、前年度が 973 件だったため、前年度比 17.8% 増でした。相談の多くが、中・長期に渡る継続対応が必要なケースが多く、調停や訴訟を求める相談者が増加傾向にあります。

相談者の居住地は、例年通り豊中市が最も多く、40%。他に、近畿の他府県だけでなく、電話やメールで全国、海外からも相談が寄せられています。

性別は女性が 76.7%、男性が 13.3%、男女（複数）が 6.6% 他、となっています。

国籍は例年通りフィリピンが最も多く 46.9%。長年実施してきているため、口コミで相談につながっています。次いで中国が 8.6%、韓国 7.1%、ベトナム 4.9% となっています。日本国籍者からの相談も多く、9.5% を占めています。

日本国籍で使用言語が日本語以外の相談は 22 件、外国籍だが日本語で相談を行ったのは 460 件で（約 40%）、そのうち相談対応言語以外の言語を公用語（母語）とするものは 30 件、10 カ国語でした。国籍は 30 カ国に及びました。

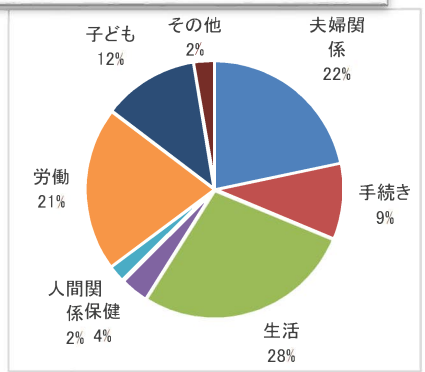
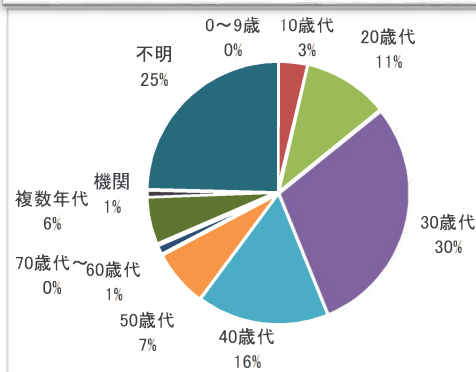
在留資格は定住者 35.5%、配偶者 10.6%、永住者 8.4% だった。

職業では介護職が 21.7%、パート・アルバイトが 14.0%、無職（主婦を除く）が 12% でした。無職は生活保護受給者が多く、就労者はほぼ非正規労働者です。

※上記以外、子どもサポート事業で対応した子ども相談の件数は 73 件でした。



上) 2016 年 5 月 3 日東京新聞にて協議離婚問題を取り上げてもらいました。
下) 関西の外国人支援団体 (RINK、神戸外国人救援ネット、京都 YWCA/APT、いくの学園、ヒューライツ大阪、箕面市国際交流協会)、二宮周平さん (立命館大学)、外国人ローヤリングネットワークと「リコン・アラート (協議離婚問題研究会)」を立ち上げて、勝手に離婚されないための啓発パンフレットと動画を 11 言語で作成しました。ウェブサイトから動画、パンフともダウンロードできます。http://atoms9.wixsite.com/rikon-alert



2016 年度相談者 年代別

分野別



外国人向け健康セミナー＆無料健康相談会のようす。毎年1回、豊中市保健センターの協力を得て、NPO法人チャームと開催しています。今年ではアーユルヴェーダの勉強会も行いました。



多言語スタッフが外国人利用者のニーズにあわせて勉強会を随時企画しています。講師に北野真由美さん（エンパワメント堺）を迎え、思春期の子どもをもつ保護者向けの勉強会「思春期の子どもとケンカにならない関係づくり～お互いを尊重しよう」を開催して好評をえました。次年度も続編を企画中！



多言語スタッフは全員女性です（左からタイ語、フィリピン語、インドネシア語、韓国語、中国語のスタッフ）。豊中市の公民協働子育てイベント「みんなあつまれわくわくランド」に保護者向け多言語相談コーナーで参加しました。



協会の日本語ボランティア有志で結成された「日本語支援グループ・むすびめ」との共催で日本語能力試験を受験する人のための個別サポートを実施して、就労やキャリアアップをめざす方をサポートしています。（写真は打ち合わせ中のむすびめメンバーの皆さん）

年2回実施される試験にあわせて、4月～6月、9月～11月に毎週火曜日にサポートを実施しています。

2017年度に向けて

- ・相談事業研究、自立支援
- ・相談にかかわるスタッフの対応能力向上！
- ・多言語スタッフが中心となり高齢者のための居場所づくりをする
- ・出身国別のイベントをおこない、みんなが集える、出会える場をつくりたい。
- ・引き続き「リコン・アラート」で協議離婚問題に取り組みます。

【相談サービス事業における対応について】

（1）ケース・ワークと他機関とのネットワーク（連携）

相談者の状況や相談内容が、諸制度を利用して問題の解決をはかる必要がある場合、ケース・ワークを行う。豊中市在住の相談者について、相談者が他機関に関わっている場合、あるいは問題対応に他機関との連携が必要な場合は、関係機関で情報を共有したり協力するなど、より適切に対応できるようにする。ケース・ワークが必要だが、相談者が遠方に住んでいたり、当協会が直接の関係機関として関与しえない場合などは、相談者が住む地域の援助機関と連携をとる。その地域で多言語の援助がない場合は、スタッフが相談者に対し、彼／彼女の状況を説明したり、相談者の希望や考えを援助機関に伝えるなど、仲介的役割を担う。他機関では多文化対応が不十分な場合があるため、相談者の状況についてスタッフが機関に説明し、適切な対応を依頼する。また相談者は、どのような支援が受けられるか十分理解できないことが多いため、スタッフが相談者の母語で説明し、相談者の安心や納得を促す。その地域で多言語対応が可能な場合でも、相談者がスタッフへの相談を望む場合は、相談者の不安を支え、相談者が適切な支援を受けられるよう支援する。

（2）心理カウンセリング

相談者の悩みや問題について、相談者自身の内面に焦点を当てる必要がある場合は、心理カウンセリングを行う。相談者が自分の内面に目が向けられるよう、受容・共感・承認的応答を行い、自分の気持ちや考えに気づき、自分なりの決定や選択ができるよう支援する。

（3）情報提供等

日常生活における情報や、行政手続等に関する情報など、相談者が法・制度や地域情報等を知らなかったり、理解していない場合は、情報提供する。

例）公営住宅の申込み、交通事故の対応、病院の情報、健康診断の結果について、確定申告、求職時の書類記入等

（4）安心して集えるコミュニティづくり

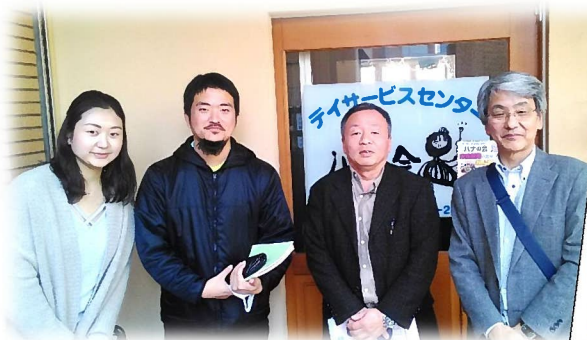
センターでの他事業を利用する来館者に対し、同国・母語の仲間と出会い、安心できる環境を提供する。コミュニティ内で集う人が安心できるようなコミュニケーションに注意したり、ニーズに対応するなどを行った。必要であれば、随時個別相談として対応し、また逆に、相談に訪れた人に出会いの場へ促すなどを行った。

おとな
サポート
事業

高齢者支援調査事業

(公財)大阪コミュニティ財団/大阪信用金庫ふれあいスマイル基金の助成を受けて、今年度外国人高齢者の居場所づくりにつなげる調査事業を実施しました。

2016年度を振り返って
調査助成をいただき、豊中市に在住する外国人高齢者のニーズを把握する調査を行いました。介護施設における外国人利用者や外国人対応の充実状況を知るためのアンケート調査、地域の外国人高齢者の生活課題や状況を概観するための個別ヒアリングを実施したほか、関西地域で外国人高齢者の支援事業を行う団体の運営や活動内容を学ぶために5団体に視察に行き、活動の実際や課題、居場所づくり、レクリエーション内容などについて学びました。



写真上左) 神戸定住外国人支援センター (KFC) のデイサービスを視察訪問。左から3番目がKFC理事長の金直吉さん。協会の大学生ボランティア、インターンと共に調査をすすめました。写真上右) 調査報告書。希望者に頒布中です。



2017年度に向けて

80年代以降に来日した外国人の高齢化を視野に入れて、協会では17年5月からフィリピン人の中高年のグループ活動を相談事業の取り組みとして試行していきます。

おとな
サポート
事業

防災事業

自然災害の多い日本で外国人が安心して暮らせるように、大規模災害時の外国人支援につながる啓発活動を行い、災害時の支援体制を整備していく取り組みを各機関と連携しながら行っています。

2016年度を振り返って

昨年度は、豊中市と共催で大規模災害時の外国人支援に関するシンポを開催しましたが、今年度は更に協議をすすめ災害時に外国人市民の支援を円滑に行うために、豊中市と「災害時多言語支援センター設置に関する協定書」を締結し、更に大阪大学と「外国人への多言語情報に関する協定書」を締結しました。また、3月11日には「大規模災害時における外国人支援、今後のめざすべき方向とは」と題して、市民も参加した多文化共生フォーラム2017を開催しました。

大規模災害時におけるめざすべき方向

主催：豊中市、(公財)とよなか国際交流協会、大阪大学大学院国際公共政策研究科、後援：(社)豊中市社会福祉協議会、(公財)とよなか国際交流協会、(財)TIFA、大阪大学



写真上左) 3月に開催したシンポジウムのゲスト、南三陸町の佐々木アメリアさんからは、震災当時の様子や外国人女性の視点から震災の影響について語っていただきました。写真上右) 同じシンポにて、阪神淡路大震災当時の市民による支援活動について葛西さん(TIFA)から報告。写真左下) 豊中市との協定締結式。左：浅利市長、右：松本理事長



2017年度に向けて

2017年度は、豊中市や大阪大学との役割分担やしきみ、そして具体的支援のあり方について協議をすすめます。また、大阪府国際交流財団の災害時多言語支援に関する研修と訓練に参加します。また、地域においての防災訓練にも参加したいと考えています。

留学生
ホストファミ
リー事業

留学生・ホストファミリー事業

留学生とホストファミリーのホームビジット型の交流活動。半年から1年にかけて交流しています。運営は「ホストファミリー世話人会」が中心になって、様々なイベントや日本文化体験事業も開催しています。



万博記念公園での交流会！



こんな日本文化体験も。留学生の鬼、様になっています。

修了式後、一緒にお出かけ

世話人会より

2016年度を振り返って

ホームビジット型のホストファミリープログラムです。留学生の日本滞在中、月1~2回程度の交流が大半です。しかし帰国後も留学生が旅行等で再来日したり、またホストファミリーが結婚式に招待されたり、あるいは観光を兼ねて訪問したりと交流が引き続き長く継続されるケースもあります。これもひとえにホストファミリーが留学生を家族の一員として受け入れ、お互い理解し合えた結果です。国家間の関係は時に難しく良好でない場合でも、異文化を尊重し個人レベルで国際交流が一層広がっていけば、と思います。

2017年度に向けて

ホームビジット型のこのプログラムを多くの人に知ってもらい、国際交流の入り口に入ってもらえる機会を今迄以上に広報・提供していきたいと思います。



卒業式での一コマ

にほんご
交流活動
事業

しょうない・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：庄内図書館)



写真左) ハロウィンパーティーのために参加者の M さんがつくってくれたケーキ♪

2016 年度を振り返って

豊中市南部地域への密着のために、毎年参加させて頂いている「キッズランド庄内」に2016年度も参加しました。外国人ママからも積極的に提案もあり、今回はタピオカドリンクとフリーマーケットの出店をしました。タピオカドリンクは完売しフリーマーケットの商品の残りは、庄内でこども食堂などの活動もされている NPO 法人 ZUTTO さんへ寄付しました。売上金は今後の活動費として使用予定です。

ボランティアより



写真上) ハロウィンパーティー!
写真左) 正月の餃子パーティー

2017 年度に向けて

外国人ママ、ボランティアともに参加者を増やしたい。小さいお子さんがいる人も減っているので、その層を特に増やしたいと考えています。参加者それぞれの特技を生かして、お料理会・ダンス教室などのイベントを増やしたいです。

にほんご
交流活動
事業

おかまち・おやこでにほんご

子育て中の外国人女性のための居場所づくりを市立図書館との共催で行っています。
毎週火曜日 10:00~12:00 (会場：岡町図書館)

2016 年度を振り返って

外国人ママ出身国のお料理会やお菓子作り、日本の季節の行事にちなんだクラフト、防災ピクニック、みかん狩りなどの様々な活動を行いました。おしゃべり会では幼稚園入園のことや身の回りのことを相談し合ったり、充実した1年となりました。また、普段活動に参加されている外国人ママが、困っている友人(外国人ママ)を連れてこられるなど、ボランティアと外国人ママの信頼関係がより深く築けた1年でもありました。

ボランティアより



写真上左) ボランティアスタッフのベビーシャワー：外国人ママが作ってくれたダイパーケーキでお祝い
写真右右) 中国出身のママに教えてもらって、子どもと一緒に中華まん作り
写真下左) 毎年恒例になりつつあるみかん狩り

2017 年度に向けて

アットホームな雰囲気を大切に、外国人ママもボランティアも毎日の大変な子育ての中で気軽に参加でき、ホッと息抜きができる場所であるよう活動継続したいです。

